

さあ5月になりました。ゴールデンウィークはいかがでしたか。6月1日は当院の開院1周年です。その前日、5月31日は「世界禁煙デー」です。その日から1週間を禁煙週間としてみんなで禁煙について考えようということですよ。

喫煙による健康障害として、①発癌性、②脳卒中、心筋梗塞など循環器疾患の増加、③肺気腫、喘息など呼吸器疾患の発生、増悪、④妊婦では胎児に対する影響などが挙げられます。

まず、①発癌性について。増加する癌として、肺がん、膀胱がん、食道がん、咽頭喉頭がん、口腔内のがんなどがあり、それぞれ非喫煙者と比べて、1.5～5倍の発生率です。特に喫煙本数に比例して発癌率は増加しますが（35本以上では肺がん8.4倍）、5本以下の喫煙でも非喫煙者に比べて2倍強の発生率です。最近の大きな問題として、未成年の喫煙があります。肺がんと言いますと、20歳未満で喫煙を開始した場合の死亡率は5.5倍です。また受動喫煙も大きな問題で1.2倍の増加率だそうです。②循環器疾患について。循環器疾患の危険因子としては、喫煙のほかに、糖尿病、高血圧、高脂血症、肥満、ストレス、家族歴などがあります。喫煙者は非喫煙者と比べて1.5倍の危険率です。③呼吸器疾患について。すでにアメリカでは20年前から結論が出ており、慢性肺疾患による死亡は心疾患、がん、脳卒中に次ぐ死因です。日本でも同様の結果が出るのは時間の問題です。

これまで日本では、喫煙者の権利のほうが主導で考えられてきましたが、やっと最近になって非喫煙者の権利が優先されるようになってきました。駅やデパート等公共の場での禁煙は当たり前になりました。これから病院では禁煙外来を含めた啓蒙活動をしなければならぬと考えています。特に先ほども述べました、未成年者の禁煙に関しては、最近使えるようになったニコチンテープにより、成人より簡単に完全禁煙に到達できるそうです。もちろんなぜ禁煙が必要か、という動機付けが必要ですが。今年の新人職員には、よりいっそうの禁煙を指導しております。病院職員は患者さんに手本を示すべきですから、皆さんよく考えましょう。

福岡新水巻病院もあと1ヶ月でやっと1歳の誕生日です。他の病院の方も数多く見学にいられて、斬新な設計に驚かれます。設計に負けない診療内容こそ一番求められることですから、私が責任を持って推進したいと思えます。 第16章。

